

「枕草子」を現代風に再現！自分流の「枕草子」を写真共有 SNS 風に創作しよう！

宮崎市立宮崎北中学校 教諭 前田 絵理

キーワード：中学校，2年生，国語，古典，枕草子，SNS，iPad，ロイロノート

実践の概要

中学2年国語「枕草子」のまとめとして、iPadとロイロノートを活用し、写真と文章を組み合わせたSNS風の随筆作品の創作を行った。自分の感性に触れる風景をiPadのカメラで撮影し、その良さを言語化する過程で、生徒は「枕草子」の作品価値に自ずと気づいていた。

1. 目的・目標

「枕草子」は、清少納言が自身の感性に響くものを「をかし（趣がある）」と表現し、約300段もの文章に書き表した日本を代表する随筆作品である。作品中で「をかし（趣がある）」とされるものは特別なものではなく、目に入った自然の様子や宮中での生活風景など清少納言にとって日常的なものばかりである。これまで誰も気に留めなかったような日常のふとした瞬間を切り取り、言葉によって鮮やかに表現したところに、「枕草子」の価値があるとされている。

日常生活の中でふと美しさに出会い、それを記しておきたいと思った清少納言の心は、現代の私たちにも通じるものがある。現代人、特に若者の多くは自分が良いと思った瞬間をすぐにスマホで撮影しSNS上にアップする。その行為はまさに清少納言が「枕草子」を記した過程とよく似ている。ただしSNSでは、いわゆる「ばえる（SNS上で美しく目立つ）」ことが重要で、写真という視覚的な情報が優位になりやすく、言語による情報は重視されにくい。生徒たちも、自身の感性に触れる風景を写真に収めることは容易でも、その良さを文章で表現することには難しさを感じるのではないかと考えた。そこで、写真と文章の組み合わせというSNSの形式を利用しながら生徒自身が随筆を書くことで、写真に収めた場面の良さやそこに感じた自分の思いを言葉で表現することの難しさを体感させ、「枕草子」のもつ言語表現のすばらしさに改めて気づかせたいと考えた。また、生徒が自身の

随筆と清少納言の「枕草子」を読み比べることで、人は日常的なものの中にふと感動を見出すことがあるという共通点に気づき、清少納言のものの方や考え方には現代の私たちにも通じるものがあるということにより強く実感させたいと考えた。

2. 実践内容

2.1 写真による「をかし（趣がある）」な場面の切り取り

まず生徒たちには、タブレット端末を持って校内を歩き回りながら、自分が良いと感じた風景を写真に収める活動を行わせた。タブレット端末のカメラを活用すれば、今見えている景色の中から直感的に良いと思った場面を写真としてタブレット端末の中に保存し、その画像を見ながら随筆を書くことができる。生徒たちは普段からSNSに親しんでおり、「ばえる写真が撮りたい」と校内を散策しながら自分だけの特別な写真を撮ろうとしていた。同じ場所でも角度を変えたり、撮った写真の色味を加工したりしながら、自分がその場面に感じた感動や思いを、読み手に効果的に伝えられる写真になるよう、積極的に活動していた（写真1）。



写真1 自分が良いと感じた風景を写真に収める生徒

2.2 「をかし（趣がある）」な写真の良さを言語化

次に、生徒たちは指導者が用意したワークシートを用いて、写真に添える随筆を考えました。写真の中で自分が「をかし（趣がある）」と思ったものを、読み手に効果的に伝えるためには、どのように文章を展開していくのがよいか、どんな言葉を使うのが最適なのか、細部にこ

【本時の学習内容】

●指導目標／「枕草子」を読んで理解したことや考えたことを、自身が創作したオリジナルの「枕草子」と読み比べることで、「枕草子」の作品価値に対する考えを広げたり深めたりすることができる。

●評価／写真と文章の組み合わせで作った自身の随筆と「枕草子」を読み比べることで、「枕草子」の作品価値に気づくことができる。

【指導略案】

●単元指導計画（全体時間3時間）

(1)「枕草子」を朗読し、古文を読み味わう。(1時間)

(2)本文を通読し、筆者のものの方や感じ方を読み取る。(1時間)

(3)自分流の枕草子を書き、「枕草子」の作品価値を考える。(1時間)

●本時の目標と展開 令和3年5月 生徒数26名×2クラス

写真と文章を組み合わせた随筆作品を創作し、「枕草子」と読み比べることで、「枕草子」の情景を鮮やかに描き出す表現力や、現代人にも通じる普遍的な美意識について気づかせる。

学習活動（生徒の活動）	指導上の留意点
タブレット端末で気に入った風景を撮影する。	撮影場所や移動時には、他の学級の授業に配慮をし、静かに活動させる。
撮影した写真のどんなところがよいと思ったのかを文章で表現する。	枕草子の構成や表現上の工夫を参考にしながら書くよう指導する。
配布された雛型のデータに写真と文章を挿入する。	文章を入力する際、キーボードの設定を個人のタイピング能力に合わせて変更させる。
できあがった自身の随筆と「枕草子」を読み比べ、「枕草子」の作品価値について考える。	「枕草子」には写真が無いこと、題材にした内容は自分たちの随筆と似ていることなど、相違点や類似点から考えさせる。

だわり、時間をかけて表現しようとする生徒が多く見られた。随筆を書き終えたら、指導者がタブレット内に用意した雛型に写真を合成し、それに自分が書いた文章を入力して、写真と文章を組み合わせた SNS 風の随筆作品を完成させた（写真 2）。普段からなじみのある SNS 風に仕上がった作品を見て、達成感や満足感を得た生徒が多かった。作品はアプリ（ロイロノート）の提出機能で回収し、生徒もタブレット上で学級全員の作品を相互に鑑賞した。鑑賞中はお互いの作品の良いところを伝え合ったり、言葉選びや表記についてアドバイスをし合ったりと、作品についての自発的な対話が生まれた。その対話での気付きをもとに推敲を重ね、作品を再提出する生徒も多く見られた。



写真 2 完成した作品

3. 成果

活動後、生徒には自由記述式の感想を記入させた。まず、作品を作成する過程についての感想（図 1）では、「写真はうまく撮れたが、文章を書くのが難しかった」といった内容のものが最も多かった。先述した通り、普段か

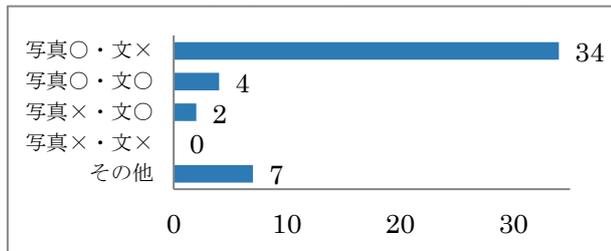


図 1 【感想】 SNS 投稿風の随筆作品の創作過程について（2 学年全生徒）。
※〇は「よくできた」、×は「難しかった」という内容であったことを示す。

ら SNS に親しんでいる生徒たちにとっては、自分の感性に触れたものを、写真という視覚情報で効果的に表現することよりも、それらを言語で効果的に表現することのほうが難しく感じられたことが読み取れた。

次に、自分の作品と「枕草子」を読み比べて気付いた「枕草子」のすばらしさについて質問すると、図 2 のような回答が見られた。生徒のほとんどが、S1、S2 の回答のように「枕草子」の鮮やかな言語表現に改めて気付いていた。また、S3、S4 の回答のように清少納言が題材にしたものに着目し、ささいなことの中にも美しさを見出した、その豊かな感性に気付いた生徒も多かった。さらに S5、S6 の回答のように、生徒たちは目の前の風景に対する自分の思いと枕草子の中での清少納言の思いに、時を超えたある種の普遍性を感じ、日常の中にふと美しさや感動を見出す感覚は、昔と今で共通することも、より強く感じたようである。

- S1: 「枕草子」は写真がなくても周りの様子がよく伝わりやすくなると思う。
- S2: 写真もない時代に文字だけで趣があると思ったものを具体的にまた読み手に伝わりやすいように書いているところがすばらしいと思った。
- S3: 身近なものの美しさによく気付いているところ。
- S4: それぞれの季節での日常のいいことに趣を感じられているところやささいなことにも気付いているところがいいと思います。
- S5: 昔に書かれたものでも現代にでも共感することができる場所。
- S6: 季節ごとにあるそれぞれの風景をまとめていて、だれもが分かりやすいような文章になっていて、現代と昔で少し似ているところがあってすごい。

図 2 【感想】 活動を通して感じた「枕草子」のすばらしさ

4. 今後に向けて

写真と文章の組み合わせという、SNS にみられる現代的で身近な形式をとった今回の創作活動は、生徒の学習意欲を大きく喚起した。またこの活動を通して、生徒たちは千年以上も昔に生きた清少納言に思いを馳せ、日常の美しさやそこに感動する心は普遍的であることを感じ取っていた。さらに、難しさを感じながらも、写真に込めた思いを自分の言葉で表現できた達成感や、相互鑑賞中の対話による気づきを通して、言語表現に対する感覚を磨くことにもつながられたものと思われる。タブレット端末の機能を活用すれば、学級や学年を超えて作品を共有し相互に鑑賞することや、鑑賞での評価をもとに表現をさらに練り上げることなど、一層幅広い言語活動が可能となり、よりねらいに迫る授業を実現できるものと考え。今後とも創意工夫を凝らし、実践を深めていきたい。